

## 香川県教育委員会 1月定例会会議録

1. 開催日時 令和2年1月15日(水)  
開 会 午前 9時00分  
閉 会 午前 9時45分

2. 開催場所 教育委員室

3. 教育委員会出席者の氏名

教育長	工 代 祐 司
委 員	藤 村 育 雄
委 員	小 坂 真 智 子
委 員	平 野 美 紀
委 員	槇 田 實
委 員	藤 澤 茜

4. 教育長及び委員以外の出席者

理事	松 原 文 士
教育次長兼政策調整監	井 元 多 恵
総務課長	白 井 道 代
義務教育課長	小 柳 和 代
高校教育課長	金 子 達 雄
保健体育課長	宮 滝 寛 己
生涯学習・文化財課長	原 田 智
政策主幹兼総務課副課長	石 川 史 郎
義務教育課長補佐	三 好 健 浩
義務教育課長補佐	高 尾 明 博
高校教育課長補佐	吉 田 稔
保健体育課長補佐	渡 邊 浩 司
義務教育課主任管理主事	長 町 裕 子
義務教育課主任指導主事	三 野 健
高校教育課主任指導主事	亀 田 龍 輔
特別支援教育課主任指導主事	三 宅 貴 将
高校教育課主任	高 森 俊 介

傍聴人 なし

## 5. 会議録の承認

12月定例会の会議録署名委員の平野委員から、同定例会の会議録について適正に記載されている旨報告。

各委員に諮り、これを承認した。

## 6. 非公開案件の決定

教育長から、本日の議題については、非公開とすべき案件がない旨、発言。

## 7. 議 案

### ○議案第1号 令和3年度香川県公立学校教員採用選考試験大綱について

高校教育課長から、令和3年度香川県公立学校教員採用選考試験大綱について諮る旨、説明。

#### 【質疑】

＜藤村委員＞特別選考Ⅰの該当者となる項目を増やしているが、総合教養を受験しなくてもよくなることは、受験者にとって相当に負担の軽減となるのか。

＜高校教育課長＞総合教養は非常に幅広く様々な分野から出願しているため、受験者はかなりの対策をしているものと考えている。また、本県独自のローカルな問題も一部出題しており、受験者は過去の問題等もチェックをしていると思われ、その総合教養の試験が免除されることは、受験者にとってかなりの負担軽減になると考えている。

＜藤村委員＞筆記試験は4項目あるが、それぞれの項目ごとの比率はどのようになっているのか。筆記試験が100点だとした場合、総合教養が何点、専門教養が何点という比率は決まっているのか。

＜高校教育課長＞項目ごとの比率は決めている。校種によって専門の違いがあるため一概には言えないが、総合教養が1に対して専門教養が2倍程度の割合となっている。

＜藤村委員＞総合教養が免除された場合、その比率はどのようになるのか。

＜高校教育課長＞総合教養を含めた全項目を受験した者を選考し、特別選考の受験者と比較して合格者を決定するという二段構えの選考を行っている。

＜藤村委員＞選考試験の小論文を廃止することだが、これからの教育ではアクティブラーニングというか課題解決能力を養う教育が主体となる中で、教員にもそのような資質が必要だと考えるが、課題解決型の教育ができる資質を持った教員を見分けるために、試験方法等で何か工夫はしているのか。

＜高校教育課長＞直接それにつながるかは難しいが、当県の専門教養の試験の中に、いわゆる知識を問う問題だけではなく、「このような場合は、どのようにして生徒に説明しますか」とか、「板書の工夫はどうしますか」といった問題も入っている。また、二次試験では模擬授業があり、その模擬授業のテーマをある程度「探求」に寄ったものにするといった工夫をしている。

＜藤村委員＞そういったところをもう少ししっかりと評価できるような仕組み作りが大切ではないかと思う。

＜平野委員＞小論文を廃止するという話の中で、実務的な話として試験に2日間行く必要があったのが1日で済むようになったことが、この大綱を読むだけではよく分からなかったが、1日で済むというメリットがどこかで分かるようになるのか。

＜高校教育課長＞確かに、これまで受験したことがある人は分かるかもしれないが、大綱を読んだだけでは分からないと思う。なお、今後発表する実施要綱を見てもらえれば、もう少し詳しい日程が記載されているので、二次試験が面接1日で済むということが分かると思う。

＜藤村委員＞英語の実力がある人を採用したいという意味で大綱を変更しており、これは英語教育に力を入れているので当然の流れではないかと思うが、一方で香川県では英語以外の外国語を話す児童生徒が小中学校に増えているという実情を踏まえて、英語以外の外国語の専門性が高い人材を教員として確保するような仕組みが今後必要ではないかと思うが、いかがか。

＜義務教育課長＞指摘のとおりである。今回は、小学校の英語の授業や外国語活動を充実させるために、少しでも英語力の高い人材を特別選考の対象として選考することとしたものであるが、委員の指摘のとおり、英語以外の言語を話すことができるという能力は、非常に求められている現状にある。そのような能力については願書の中に特技等を記載する欄があり、そこに記載をする学生もいるが、正式に願書に記載欄を設けるなどして、選考基準に加えることも検討したいと思う。

＜平野委員＞願書の特技欄に例示を記載するのであれば、そこに「使える外国語」等と記載しておけば書いてもらえるのではないかと思う。

＜藤村委員＞今回は難しいと思うが、今後はそのような人材も教員に入れていく必要があると思うので、ぜひ検討をしてもらいたい。

各委員に諮り、原案のとおり可決した。

## 8. その他事項

- その他事項1 令和2年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領について義務教育課長から、令和2年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領について説明。

### 【質疑・意見交換】

＜藤村委員＞一昨年、総合教育会議の中で知事から「全国学力・学習状況調査」の順位の話が出たが、目標を設定して頑張らせた方が良いのではないかという意見もあるほか、議会でも香川県の教育レベルの低下が懸念されている中で、

やはりある程度目標設定を掲げるとか順位を上げる算段をする必要があるのではないか。

＜義務教育課長＞他県の状況も聞いてみると、児童生徒が普段解いている学校の定期テストの問題とは異なる内容であるため、慣れるためにそのような特異な問題を事前に解く練習しているところも多いが、本県ではしていない。また、県内市町別の順位を公開したことで市町の意識が上がり、その結果として順位も上がったという話も聞いているが、そうすれば平均正答率だけを見て過度な競争になってしまい、文部科学省が調査を実施している意図とは異なる面もある。ただ、現在の調査が開始された平成19年度には、小学校は全国3位、中学校は全国6位だったものが、現在は全国中位程度になっている。もっと遡れば、昭和36年、37年には全国1位という学力県とされていた。委員の意見を受けて、令和2年度にこの学力に対して、どういった考え方でどう取り組んでいけば良いか、香川型指導体制ということで平成14年から、平成23年に改定してずっと取り組んできているが、指導体制や指導方法等をはじめ、一度検討委員会を設けて協議を進めていきたいと考えている。

＜藤村委員＞順位が上がることはみんなが望んでいることだと思うが、それを過度な競争を生じさせずにどのような方法で実現させるかが、なかなか難しいところだと思う。学力以外の別の評価も大切だと考えているが、競争社会の中である程度は仕方がないところもあり、順位が上がることを望む意見が県民に多いということも踏まえて対応することも大切ではないかと思う。

＜義務教育課長＞しっかりと検討していく。

#### ○その他事項2 令和2年3月香川県公立高等学校卒業予定者の就職内定状況について

高校教育課長から、令和2年3月の香川県公立高等学校及び県立特別支援学校の卒業予定者の就職内定状況について説明。

#### 【質疑・意見交換】

＜藤村委員＞看護科の5年課程で、3年の卒業時に就職を希望する生徒はいないのか。

＜高校教育課長＞希望する生徒はいない。本県の場合は、元々5年一貫でやっており、3年で就職する場合は看護以外の就職となってしまう。

＜藤村委員＞昨年、一昨年の状況はどうだったのか。

＜高校教育課長＞昨年、一昨年も今年と同様で就職希望者はいなかった。

#### ○その他事項3 第74回香川丸亀国際ハーフマラソン大会について

保健体育課長から、第74回香川丸亀国際ハーフマラソン大会の参加申込状況、主な招待選手等について説明。

**【質疑・意見交換】**

<藤村委員> スタート時間が以前に比べて少しずつ遅くなっているように思うが、テレビ放送の関係とか何か理由があるのか。

<保健体育課長> 参加者数が増えていることもあると思う。当日のスタート時間を早くすると、遠方から参加される方の集合時間も早くなることなどへの配慮もあるのではないかと思う。

<藤村委員> 大会に参加して走る人が注目されがちであるが、有名な招待選手も多く参加するようになっているので、大会を見ることでも楽しめるということもPRすることも、これからもっと必要だと思う。

○その他事項4 第75回国民体育大会冬季大会について

保健体育課長から、第75回国民体育大会冬季大会香川県選手団について説明。

**【質疑・意見交換】** 無し